

(2) 学校質問紙の結果

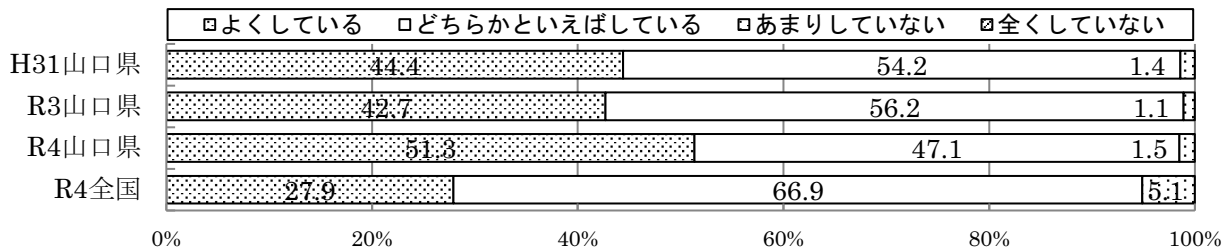
① 学校運営

ア 横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列して指導計画を作成

- 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、全国と比べて高い。

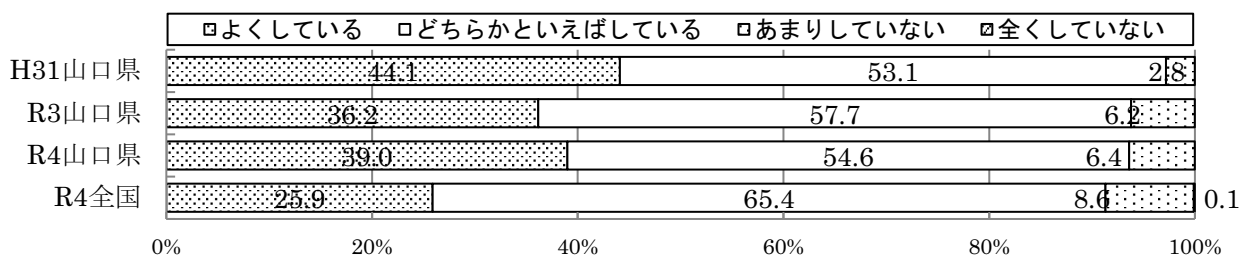
【小学校】

16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



【中学校】

16 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している

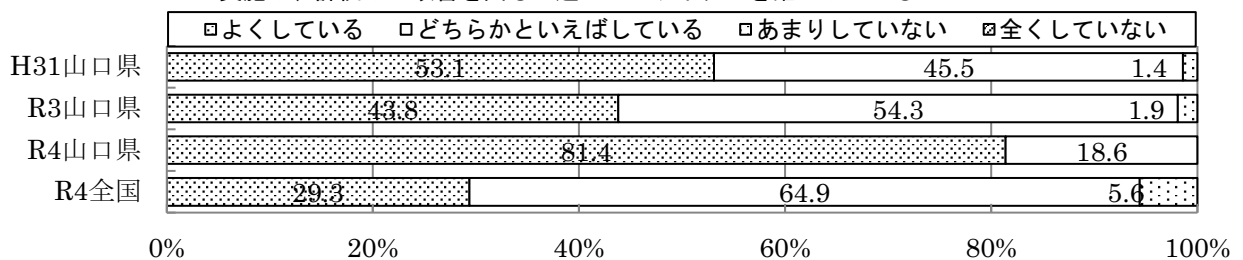


イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

- 児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、全国と比べて高い。

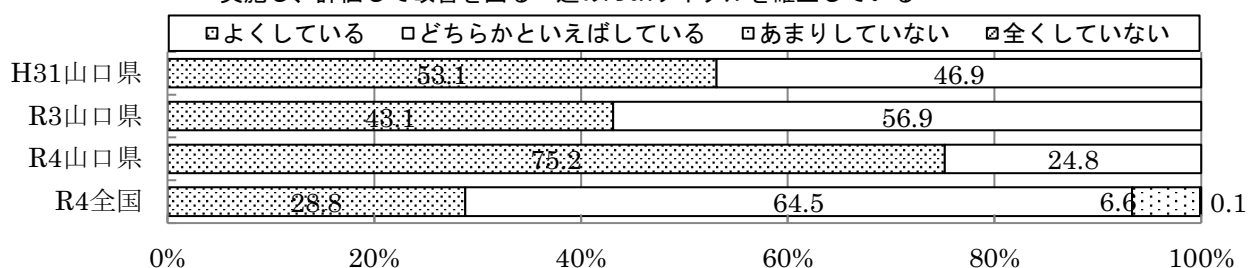
【小学校】

17 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



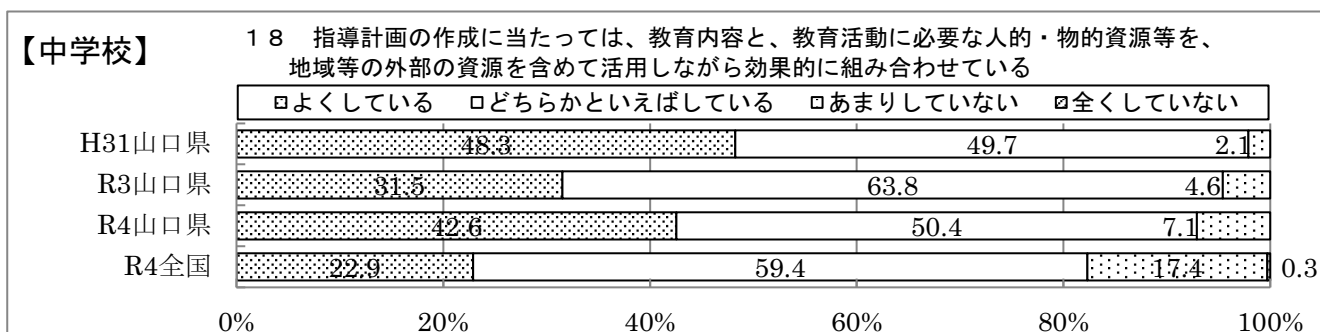
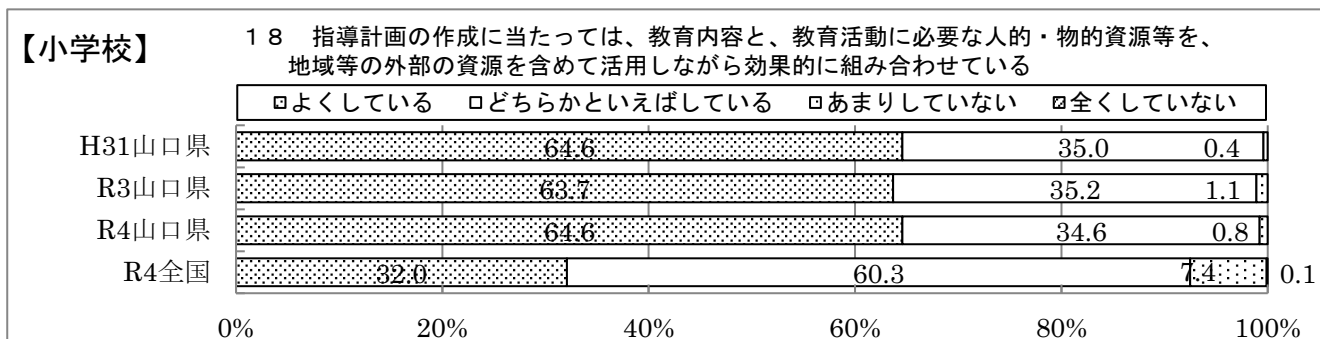
【中学校】

17 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



ウ 教育活動に必要な人的・物的資源等の活用

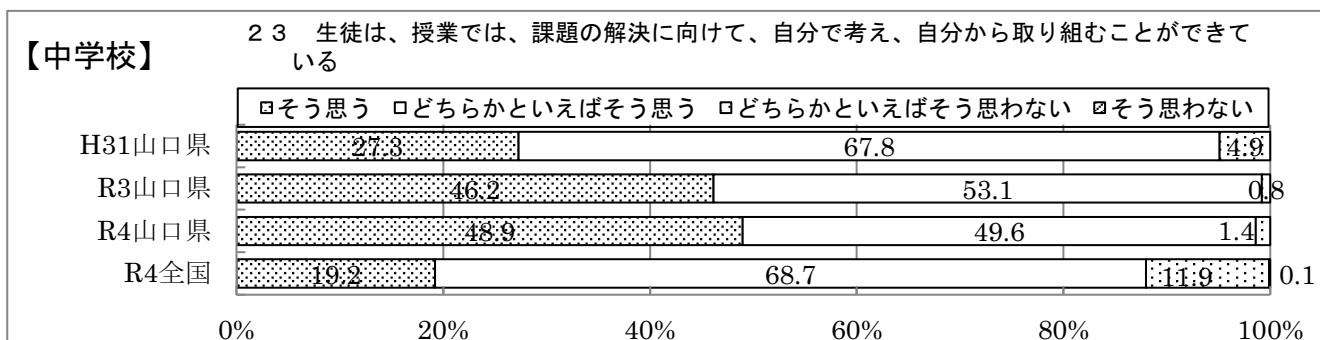
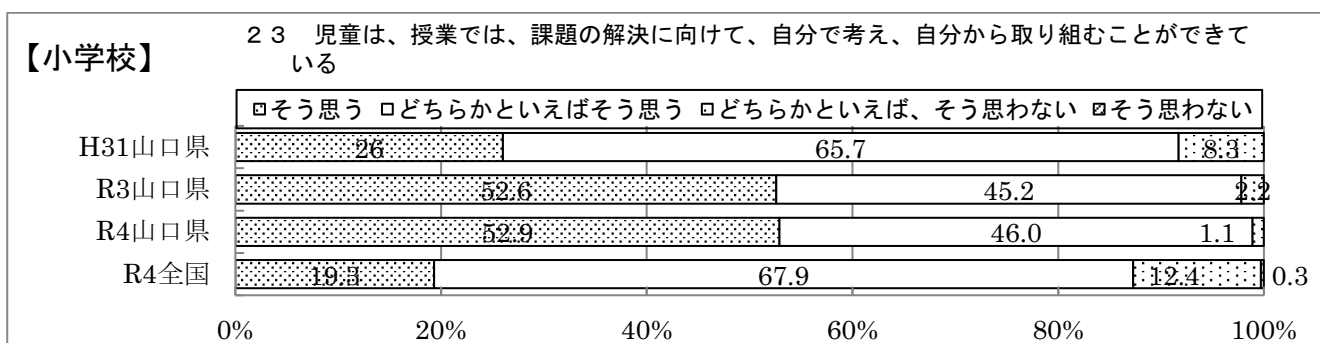
- 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校の割合は、全国と比べて高い。



② 学習指導

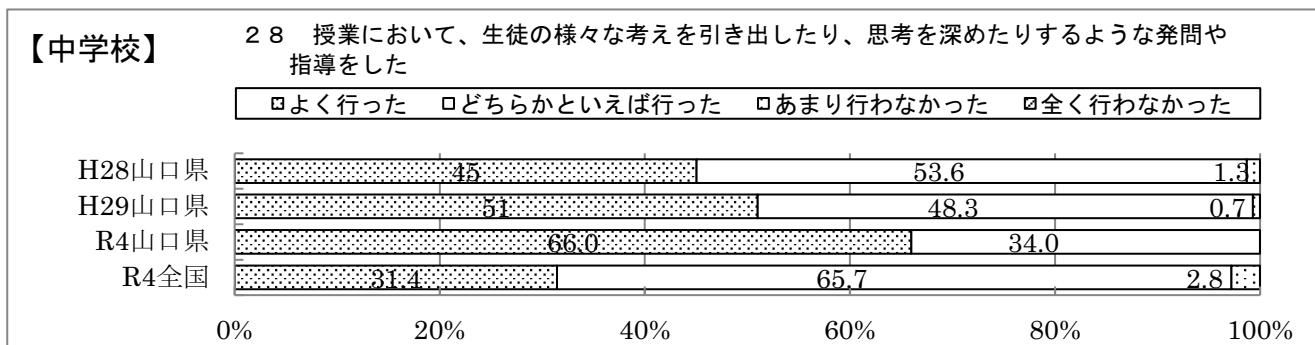
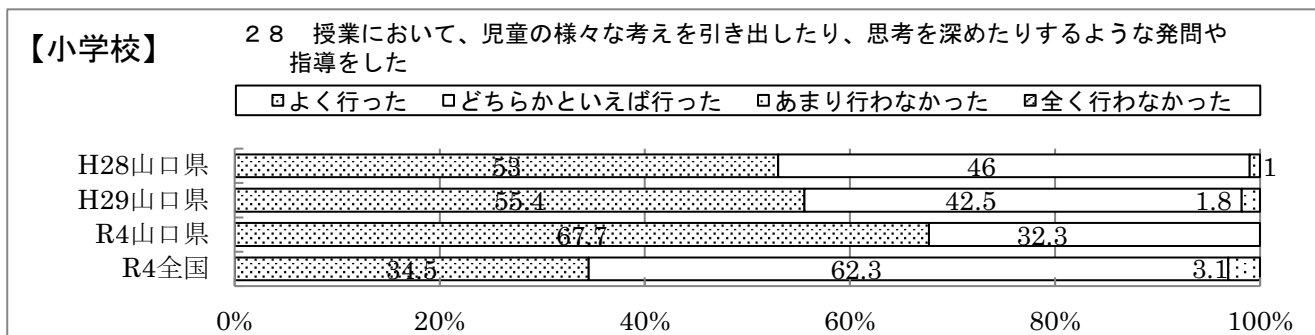
ア 授業では、児童生徒は自分で考え、自分から取り組む

- 授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる学校の割合は、全国と比べて高い。



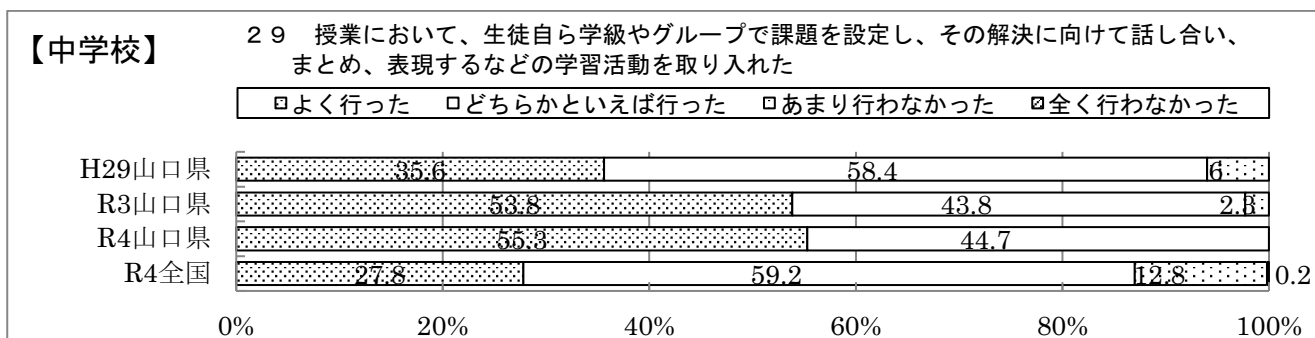
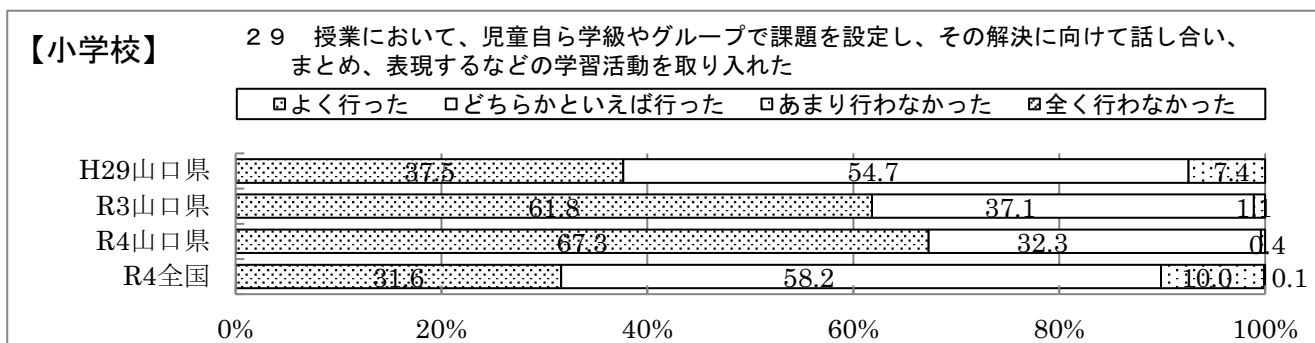
イ 授業における児童生徒の考えを引き出し、思考を深める発問

- 授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。



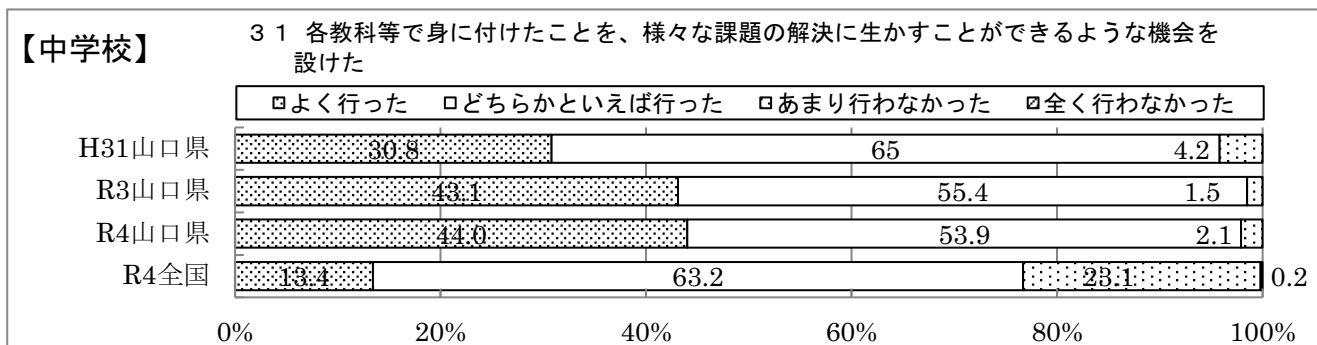
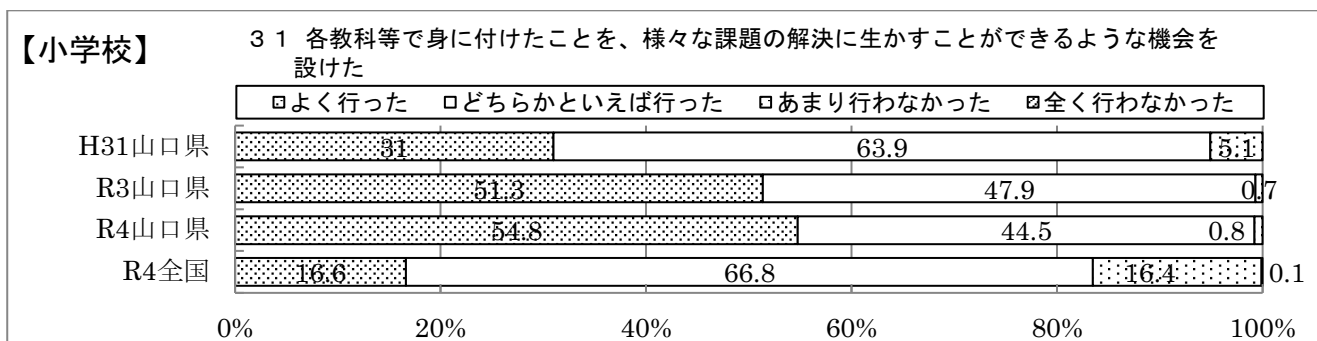
ウ 課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動

- 授業において、児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。



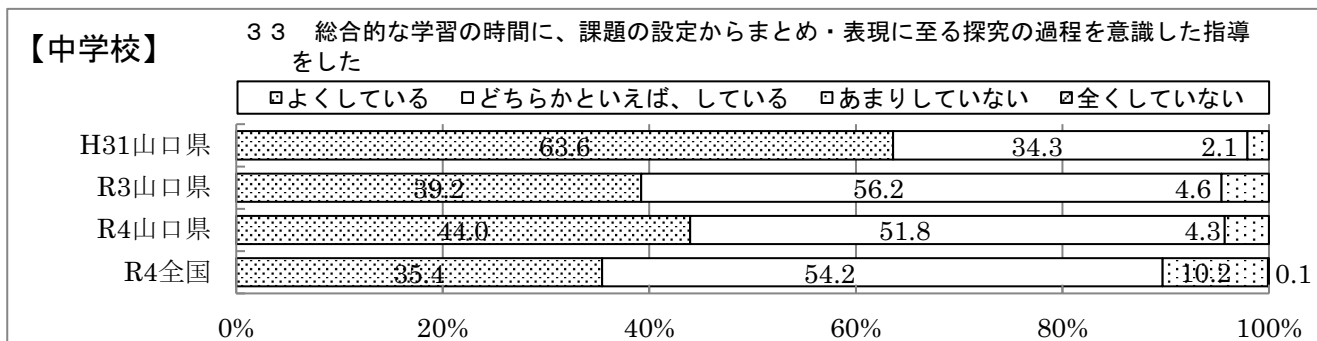
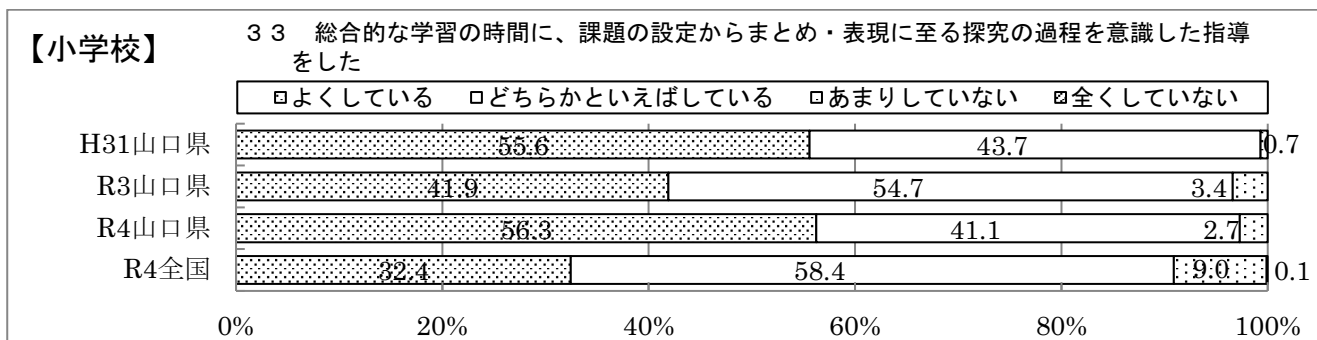
エ 各教科等で身に付けたことを、課題解決に生かす機会の設定

○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。



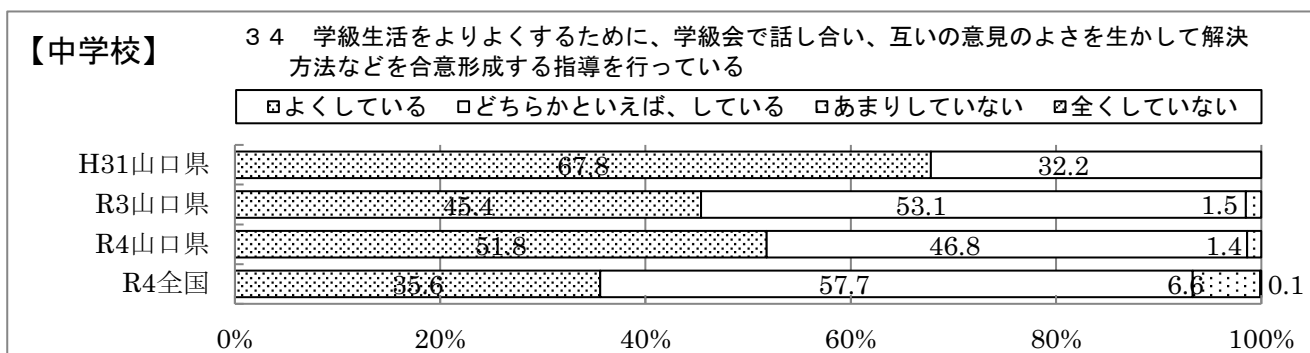
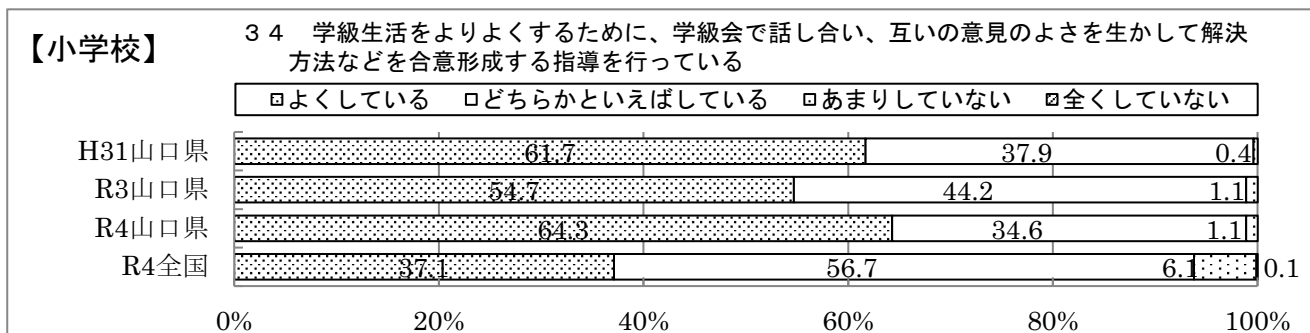
オ 総合的な学習の時間における指導

○ 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした学校の割合は、全国と比べて高い。



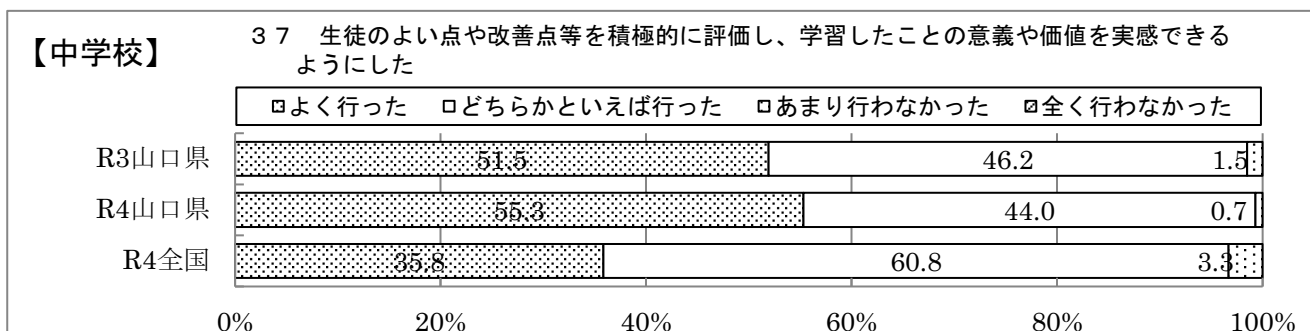
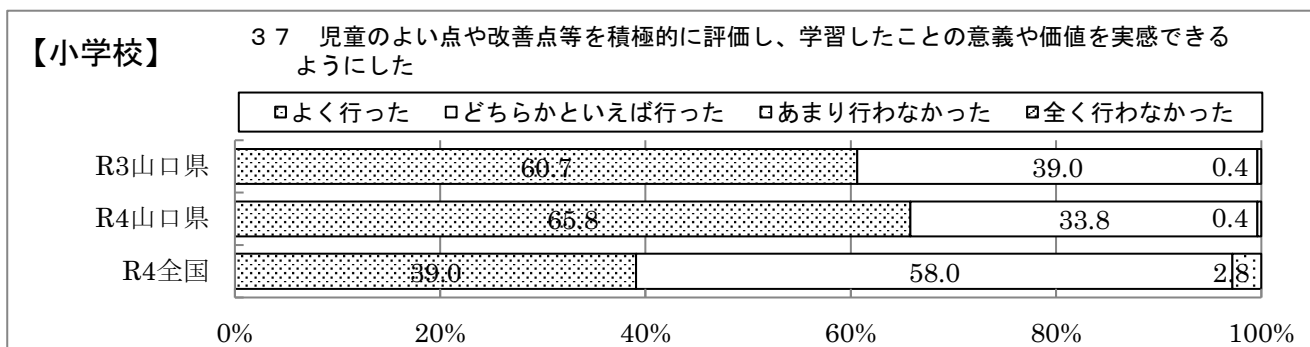
カ よりよい学級生活のために話し合い、合意形成する指導

- 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。



キ 児童生徒のよい点や改善点等の積極的な評価

- 児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。

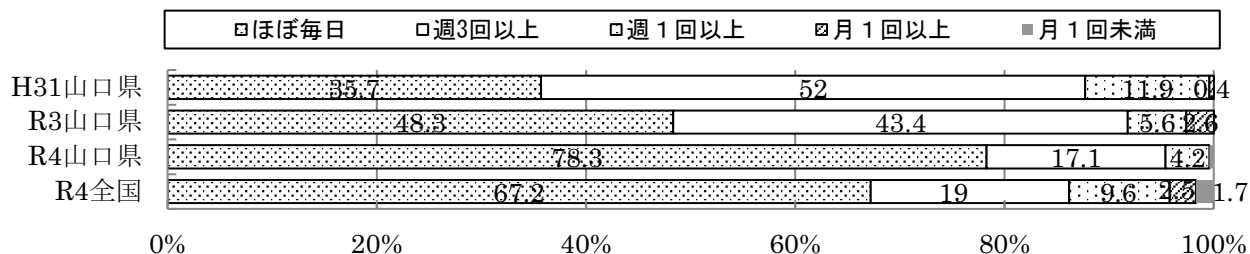


ク 大型提示装置等のICT機器を活用した授業

○ 教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行った、と回答した学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。

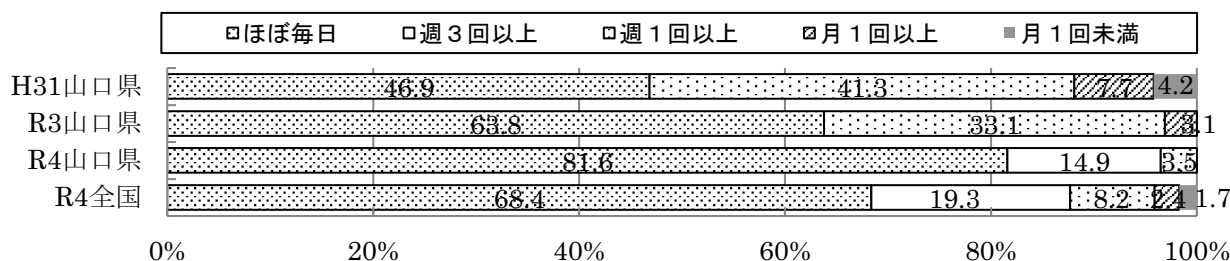
【小学校】

5 6 教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか



【中学校】

5 4 教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか

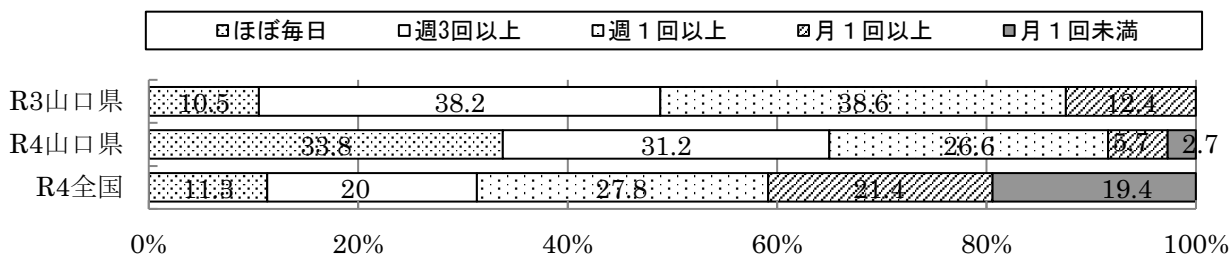


ケ ICT機器を活用した児童生徒同士のやりとり

○ 児童生徒がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している、と回答した学校の割合は、全国と比べて高い。

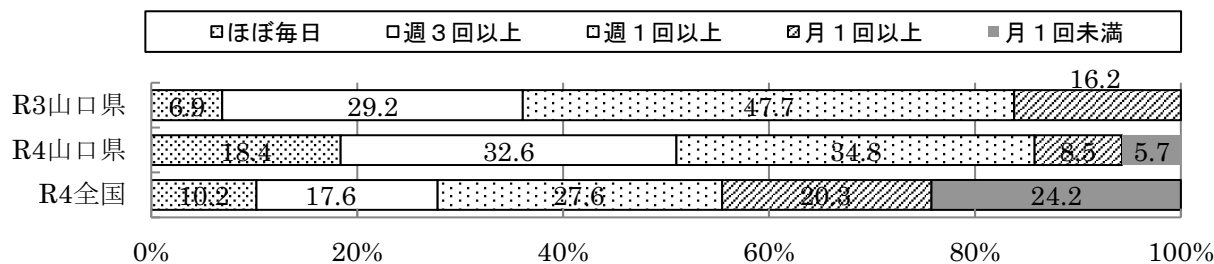
【小学校】

6 3 児童同士がやりとりする場面で、児童にPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか



【中学校】

6 1 生徒同士がやりとりする場面で、生徒にPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか

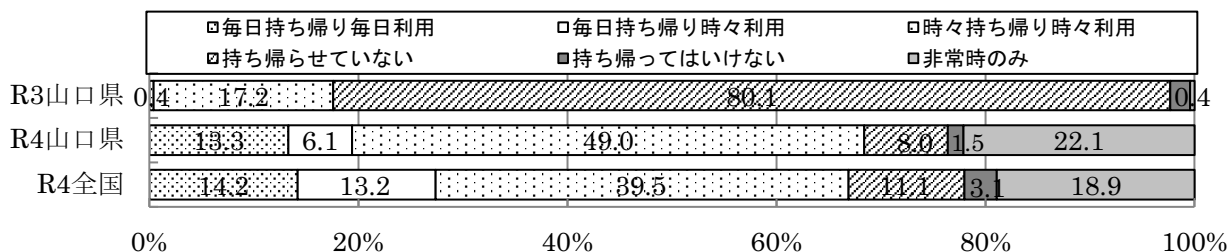


コ 配備された一人一台端末の家庭での利用

- 配備されたPC・タブレットなどの端末を毎日家庭に持ち帰り毎日利用している、と回答した学校の割合は、全国と比べて低く、非常時のみ持ち帰りをしている学校の割合が全国と比べて高い。

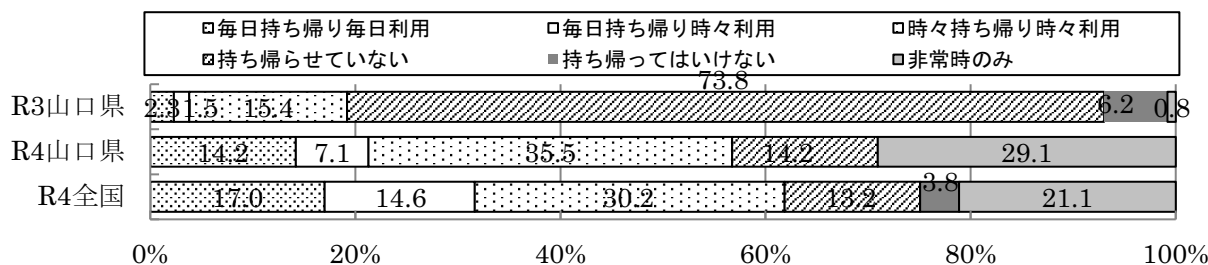
【小学校】

6 6 児童に配備されたPC・タブレットなどの端末をどの程度家庭で利用できるようにしているか



【中学校】

6 4 生徒に配備されたPC・タブレットなどの端末をどの程度家庭で利用できるようにしているか

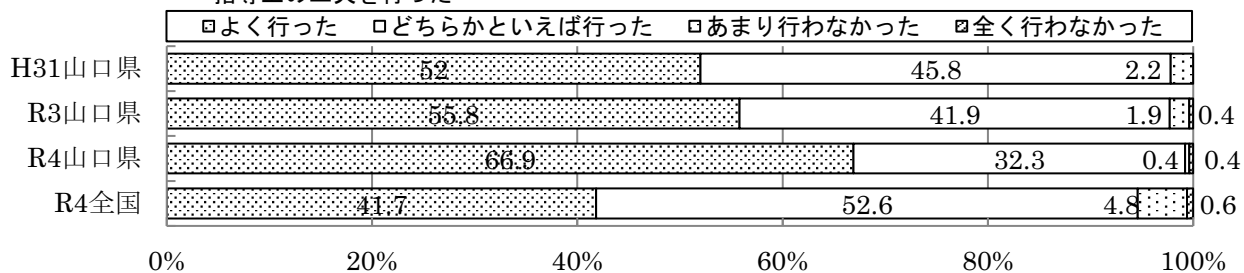


サ 特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫

- 教員が特別支援教育について理解し、授業の中で児童の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合は、全国と比べて高く、増加傾向にある。

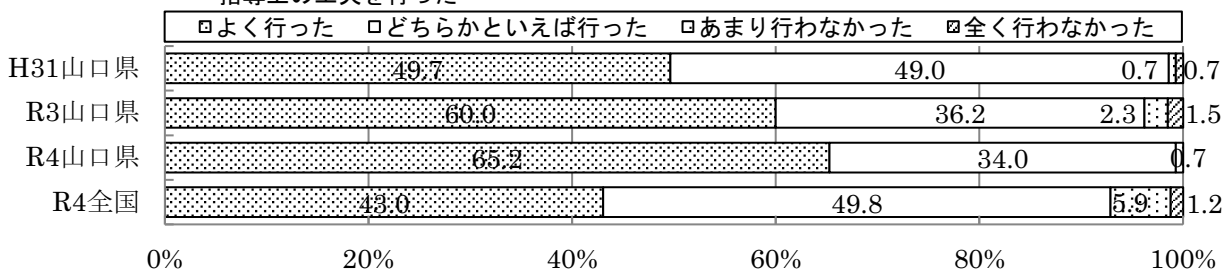
【小学校】

6 8 教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で児童の特性に応じた指導上の工夫を行った



【中学校】

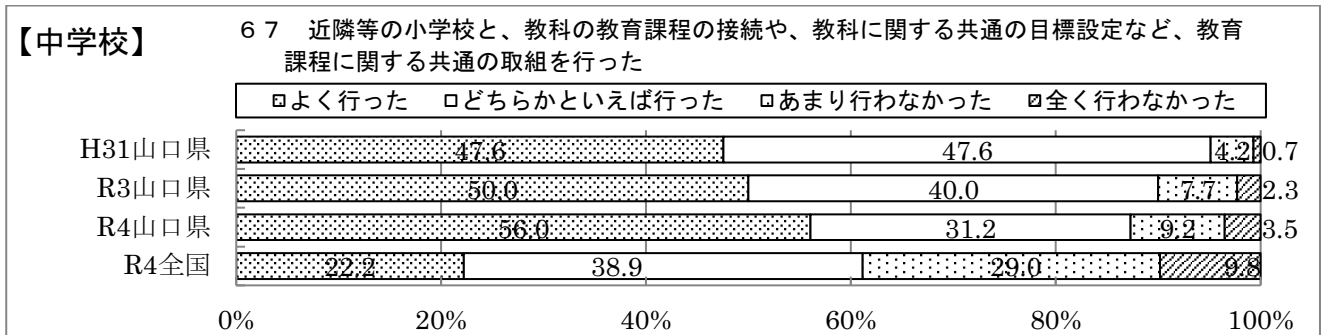
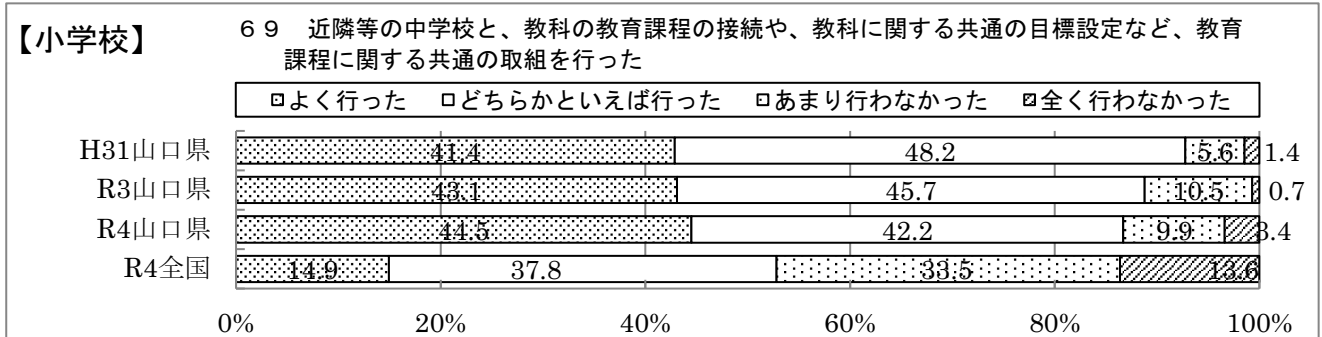
6 6 教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った



③ 学校・家庭・地域との連携

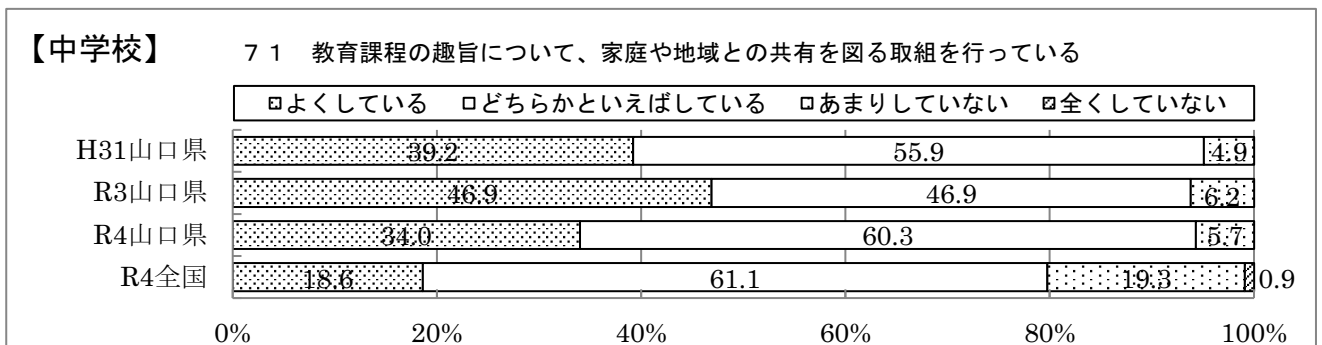
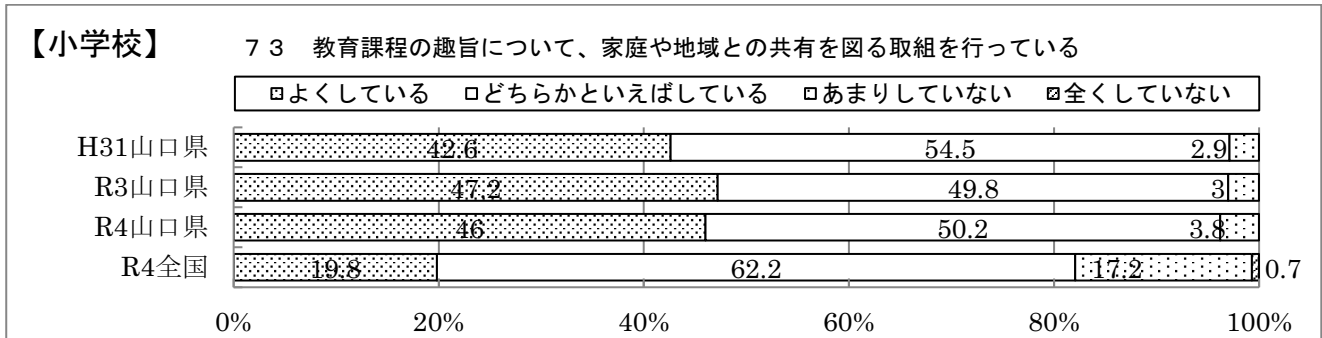
ア 教育課程に関する小・中学校共通の取組

○ 近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、全国と比べて高い。



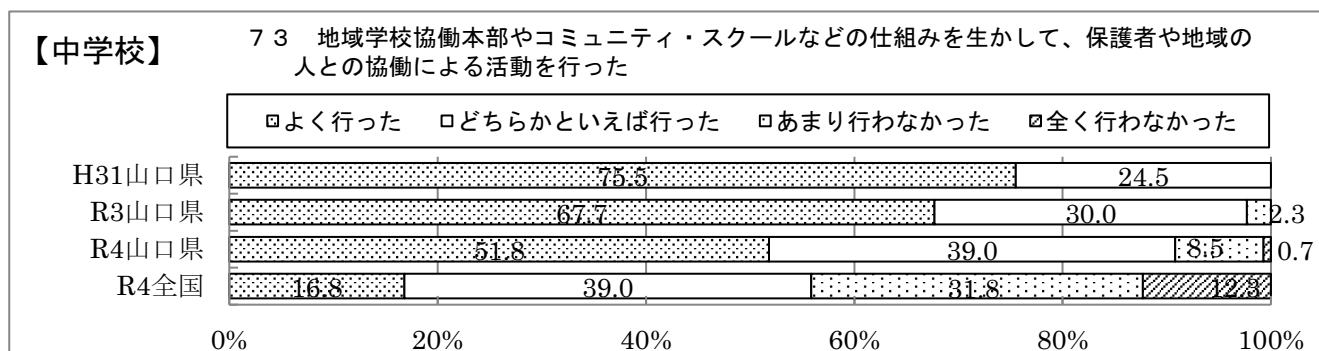
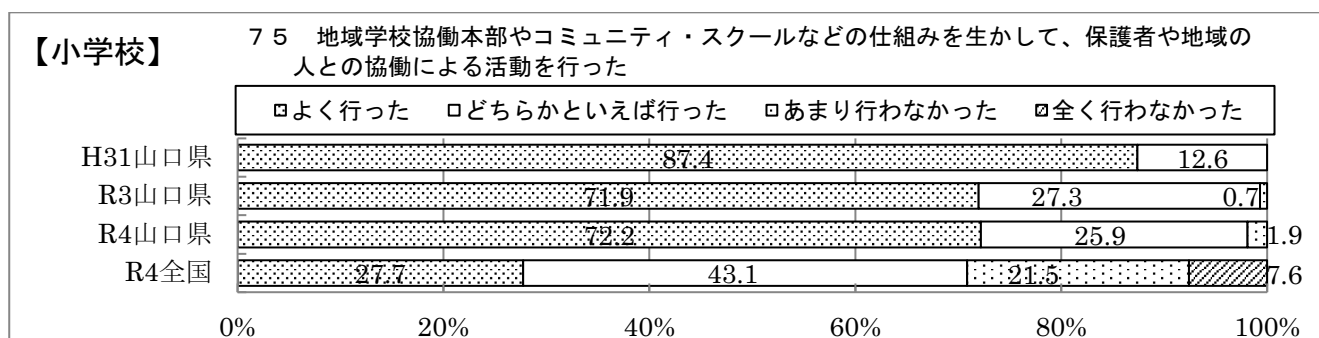
イ 教育課程の趣旨について家庭や地域と共有

○ 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。



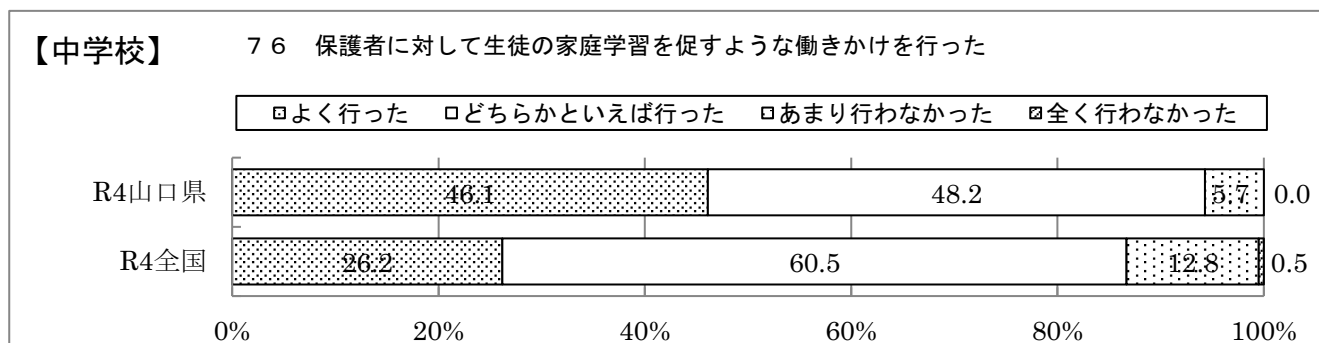
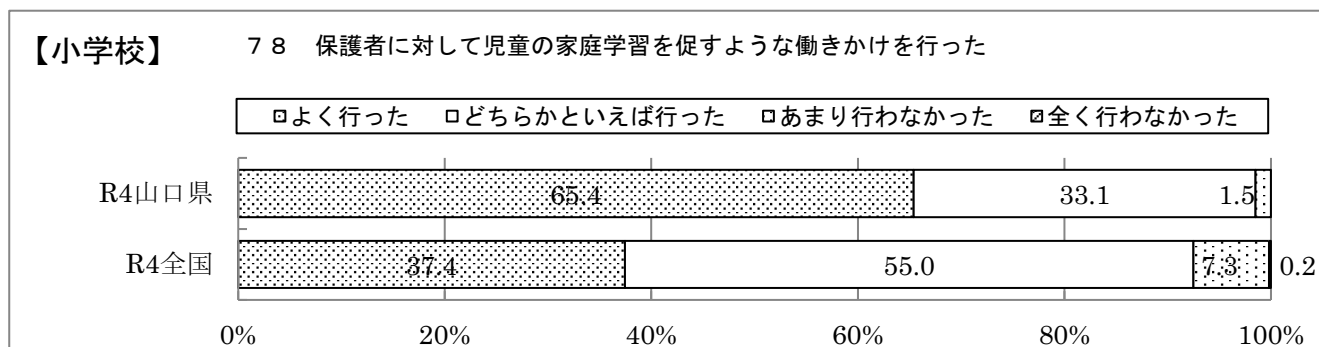
ウ コミュニティ・スクールの仕組みを生かした活動

- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、全国と比べて高い。



エ 家庭学習を促す働きかけ

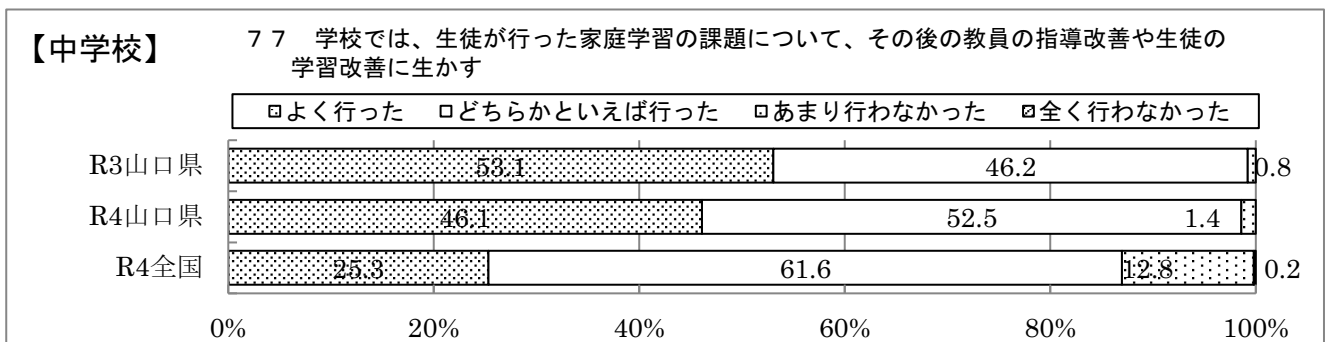
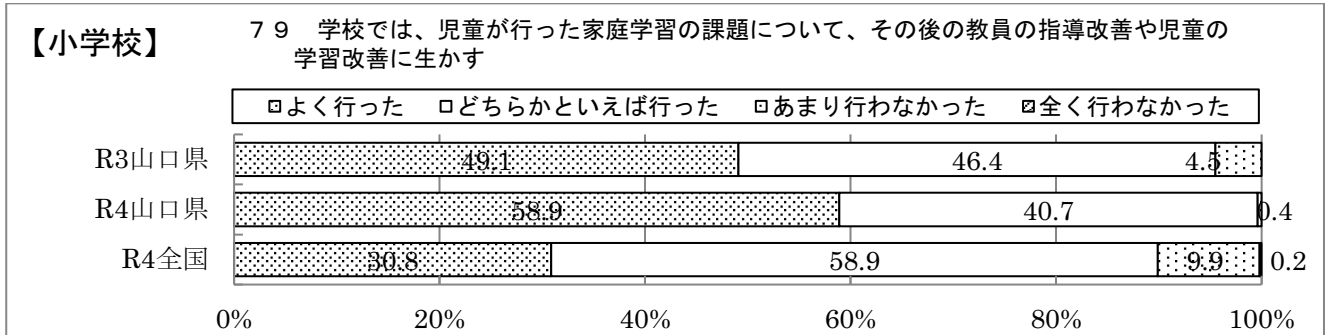
- 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った学校の割合は、全国と比べて高い。



④ 家庭学習・調査結果の活用

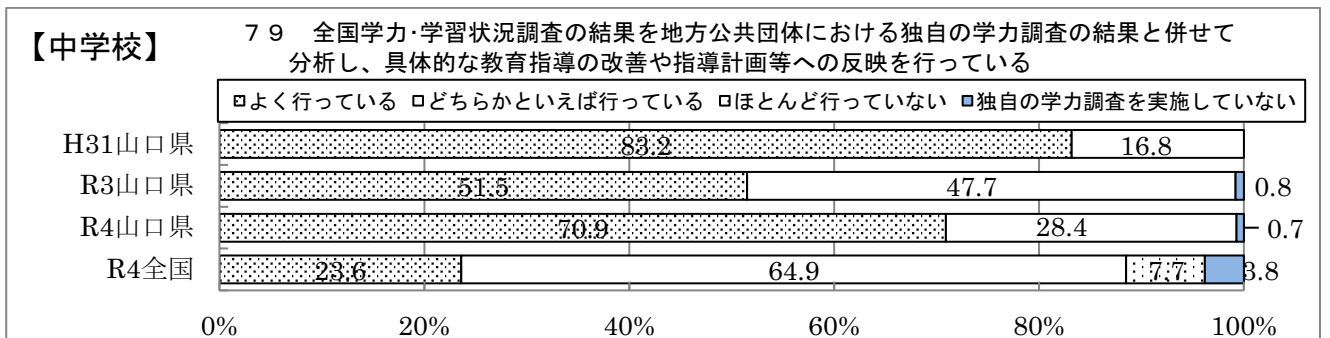
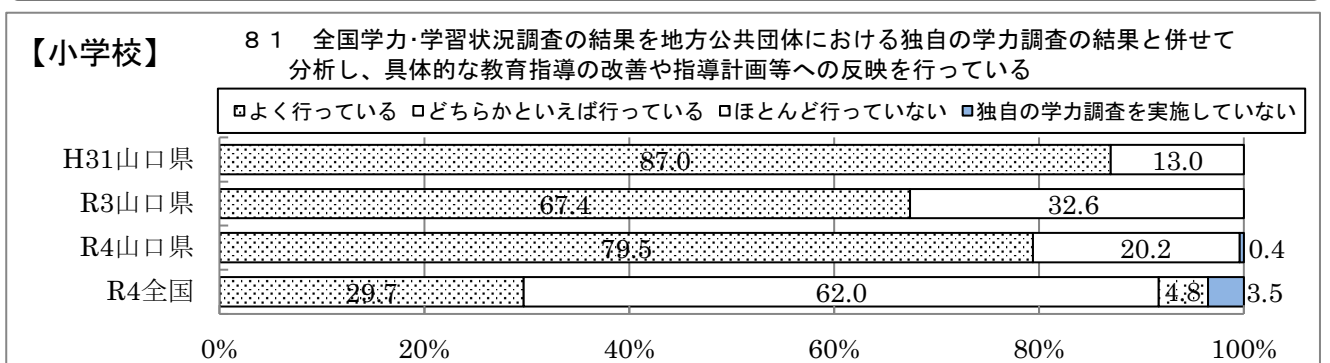
ア 児童生徒が行った家庭学習の課題について、指導改善や学習改善に生かす取組

- 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす学校の割合は、全国と比べて高いが、中学校では「よく行った」と回答した割合は減少した。



イ 全国学力・学習状況調査の問題の活用

- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、全国と比べて高い。



3 学力向上に向けた今後の取組

県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。

- ◆ 「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組む。
- ◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

※今回の調査結果を踏まえ、特に重点的に取り組む内容のみ記載

学校の組織力の充実

- ◆ 全校体制による学力課題の焦点化と年間2回の検証改善サイクルの活用
 - ・ 児童生徒の誤答分析に基づく学力課題の焦点化と共有
 - ・ 焦点化した学力課題の解決に関する取組の実現
 - ・ 全国調査と学力定着状況確認問題の活用による課題解決に向けた取組の検証・改善
- ◆ 「やまぐち学習支援プログラム」の活用を軸にした組織的な指導体制づくり
 - ・ 「やまぐち学習支援プログラム」の実施による児童生徒の学力に関する情報把握
 - ・ 授業における「やまぐち学習支援プログラム」の活用による学力課題の解決
 - ・ 児童生徒一人ひとりの実情に応じたきめ細かな指導の充実
 - ・ 全教職員や地域人材の活用による組織的な補充学習の促進
- ◆ 学力課題を意識した全校体制によるカリキュラム・マネジメント

教員の授業力の向上

- ◆ 「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
 - ・ 児童生徒自身が、授業で分かった点やよく分からなかった点を見直し、自らの学習活動を振り返って、次の学習にいかそうとする場面（振り返り）を重視した授業改善の推進
 - ・ ICTの活用等による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現
 - ・ 学力向上推進リーダー等を活用した校内研修の充実
- ◆ 教科の専門性やキャリアステージに応じた研修
 - ・ 若手・中堅・管理職を対象とした各研修会の改善（事前課題の設定など）
 - ・ 研修成果を校内研修の活性化に反映させることによる各学校の教育活動の充実

学校・家庭・地域の連携力の強化

- ◆ コミュニティ・スクールの仕組みを生かした「学力向上」の取組の強化
 - ・ 学校運営協議会における、学力課題の共有や課題解決に向けた熟議の促進
 - ・ 学校・家庭・地域における学力に関する情報共有に基づく学習習慣の確立
 - ・ 地域人材の参加による学力課題の解決を意識したユニット型研修の促進
- ◆ 異校種間連携の充実による学習環境づくり
 - ・ 中学校区における学力向上の取組に関する連携・協働
 - ・ 「学校・地域連携カリキュラム」見直し等による小中一貫教育の推進
 - ・ 授業力向上実践研究校、小中高連携英語教育推進校・連携校などによる研究の推進